

近現代史(9)「19世紀ロシア史① ～東方問題～」

☆東方問題…衰退したオスマン帝国の領土をめぐる争いのこと。

⇒狭義には、以下の5つの戦争におけるトルコ領をめぐるヨーロッパ列強の凌ぎ合いを指す。

ギリシア 独立戦争	第一次 エジプト=トルコ戦争	第二次 エジプト=トルコ戦争	クリミア戦争	露土戦争
アドリアノープル条約	ウンキヤル=スケレッシ条約	ロンドン会議 ↓ 海峡協定	パリ条約	サンステファノ条約 ↓ ベルリン会議

【1】ギリシア独立戦争 1821～29 [英仏露]-[ギリシア] VS [トルコ]-[エジプト]



- (1)[①]がオスマン帝国に対して独立を宣言。オスマン帝国
↓はエジプト軍を動かして鎮圧を図る
- (2)西欧の義勇軍([②]など)がギリシアを支援
↓ ※ 東地中海への進出を目指す英仏露も戦争に介入する！
- (3)ナヴァリノの海戦でトルコとエジプト(総督[③])を破る
↓
- (4)1829 露土間で[④]を締結。
▶ 黒海と[⑤]海峡の自由航行権を承認
⇒イギリスはインド経営が脅かされるので極度の拒否反応を示す

【2】第一次エジプト=トルコ戦争 1831～33 [英仏露]-[エジプト]VS[トルコ]-[露]

- (1)ムハンマド=アリー、[⑥]領有をオスマン帝国に要求して開戦！
↓ ※ギリシア独立戦争時におけるトルコ支援の報酬がクレタ島とキプロス島のみであったため。
- (2)英仏がトルコに圧力を加えて強制的に和解させる
↓ ※ロシアがボスフォラス海峡に付近に上陸したため。
- (3)トルコは不満を持ち、ロシアと相互援助条約[⑦]を締結。
▶ロシアはボスフォラス・ダーダネルス海峡におけるロシア軍艦の独占通行権を獲得！
▶イギリスは強く反発！

【3】第二次エジプト=トルコ戦争 1839～1840 [仏]-[エジプト]VS[トルコ]-[英露普奥]

- (1)地中海東部地域をめぐる英仏露で対立が激化！
↓ ⇒仏はエジプトに接近！ ⇒仏の抜け駆けを阻止せよ！ ⇒英、トルコに接近。英露普奥で同盟
- (2)1839年 第二次エジプト=トルコ戦争勃発 [⑧]は孤立化しエジプトは大敗！
↓
- (3)1840年 [⑨]…エジプト、トルコの宗主権下でエジプト統治の世襲権だけ認められ、シリアは放棄させられた。
↓
- (4)1841年 [⑩]…外国軍艦のボスフォラス・ダーダネルス海峡の通行禁止。ウンキヤル=スケレッシ条約の破棄が決定。
↓
- ☆イギリスはフランスのエジプト進出とロシアの南下政策の両方を阻止することに成功！！
※[⑪]外交の勝利！！ 外交的指導権を掌握する

【4】クリミア戦争 1853～1856 [英仏サルデーニャ]-[トルコ]VS[ロシア]

(1)[12]

↓
 ・トルコ領パレスチナにおける聖地エルサレムの管理権問題。16世紀以来仏王が管理権を所有していたが、フランス革命時に宗教を廃止したので、ロシアの支援でギリシア正教会が管理権を得ていた。だがナポレオン三世がオスマン帝国に聖地管理権を要求して獲得したのでロシアのニコライ1世は不満に思った。

(2)聖地管理権を喪失した[13]、ギリシア正教徒保護を口実にトルコに侵入

(3)英仏サルデーニャがトルコ側で参戦。

↓
 ・激戦地としてクリミア半島の[14]が1年間の包囲戦のあと陥落
 ・ロシアの後進性が露呈される⇒戦時中に即位した[15]の国内改革へつながる
 ↓
 ・文化史；トルストイ『[16]』、女性看護団を率いたナイティンゲール

(4)1856年 [17]で講和

- ・トルコの領土保全、黒海の中立
- ・ボスフォラス・ダーダネルス海峡の外国軍艦の通行禁止

【5】露土戦争 1877～78 [トルコ]VS[ロシア]

(1)[18]でギリシア正教徒が反乱。

↓
 (2)ロシアは[19]を唱えてギリシア正教と保護を名目に対トルコ宣戦して勝利

↓
 (3)[20]

- ・ルーマニア、セルビア、モンテネグロの独立
- ・大ブルガリア自治公国

(4)イギリス・オーストリアの不満

- ・イギリスはブルガリアをロシアの傀儡国家と考え、サン=ステファノ条約に反発
- ・オーストリアはパン=ゲルマン主義を唱えてバルカン半島に進出し、サン=ステファノ条約に反発

(5)ドイツ帝国のビスマルクは「[21]」と称して[22](1878)を主宰

☆[23]

- ・[24]の領土縮小
- ・イギリス[25]の管理権を獲得！（ユトレヒト条約で[26]）、ウィーン議定書で[27]、エジプトの財政難における株式買収でスエズ運河を獲得しインド航路を確保
- ・オーストリア、[28]の統治権を獲得

